

# 埼玉大学教育実践フォーラム 2025



## —教育実践研究成果の発信と地域の学校・教員との交流の場— (最終案内)

埼玉大学(附属学校園及び教職大学院を含む)による教育実践研究成果の公開、及び埼玉大学の教員が地域の学校・教員の皆様の研修機会を提供できるよう交流することを目的とする催しです。分科会では、講座・分野別、テーマ別に「ラウンドテーブル」で意見交流したり、「ワークショップ」で指導法や教材の紹介や個別質問に対応したり、様々なテーマに関心を持つ学校関係者の皆様とのネットワーク構築を目指しています。教師を志す人にとっても、教師の実践研究の成果から直接学ぶことができる貴重な機会です。学生、院生、教員、研究者が繋がる年に一度の催しに、ふるってご参加ください。

大会ホームページ

日時: 2025年2月15日(土)

<https://www.saitama-u.ac.jp/edu/>

会場: 埼玉大学教育学部(対面開催、一部 Zoom によるハイブリッド配信)

主催: 国立大学法人埼玉大学

後援: 埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会

埼玉県公立小学校校長会 埼玉県中学校長会

さいたま市立小学校校長会 さいたま市中学校長会

住所: さいたま市桜区下大久保 255 (一部は教育学部附属小学校(さいたま市浦和区常盤 6-9-44)で実施)

アクセスマップ <https://www.saitama-u.ac.jp/access/accessmap/>

問合せ先: 埼玉大学教育実践フォーラム実施委員会

電話:(048)858-3142(開催当日は電話対応できません) Eメール: [eduforumsaitama@gmail.com](mailto:eduforumsaitama@gmail.com)



参加申込み: 2月12日(水)までに、以下の URL か、左の QR コードよりお申込みください。【参加費無料】

<https://forms.gle/WHDoiMxHiUZ388MP9>



- オンラインで参加の方には前日までに Zoom の接続先をメールでお知らせします。
  - 対面参加の方には、当日参加者受付にてプログラム冊子とネームプレートをお配りします。
  - 駐車スペースが限られておりますので、できるだけ公共交通機関をご利用されますようご協力をお願いします。お車ご利用の場合は、上記「問合せ先」の Eメールにて、代表者名と車両番号とともにお申込み下さい。先着順に入構許可番号をお送りします。
- 近隣商店等への駐車は、絶対にお止め頂くようお願いします。

## プログラム

9:30-12:10	教職大学院発表会	現職院生・M1・M2 学卒院生発表	p.9~
13:00-14:40	全体会「附属学校園の課題と試み」 パネルディスカッション 新しい時代の学校教育に向けて —多様性を尊重した教育の実践と挑戦—		p.2~
15:00-17:00	分科会 国語 算数・数学 理科 生活・総合 外国語(英語) 図画工作・美術 音楽 体育・保健体育(会場:附属小学校) 技術・情報 家庭 STEAM教育 乳幼児教育 特別支援教育 学校保健学 心理学 教員研修		p.4~

パネルディスカッション

新しい時代の学校教育に向けて —多様性を尊重した教育の実践と挑戦—

多様性を尊重することはますます重要なテーマとなっています。子どもたち一人ひとりの異なる背景や価値観を理解し受け入れていくことが、よりよい教育に繋がると考えています。

今回の附属学校園の発表は、多様性を尊重した教育に焦点を当てて、実践を紹介して参ります。また、大学教員や附属学校教員との交流を通して、明日の教育へのヒントを得られる場にしたいと考えております。

・ファシリテーター

吉川 はる奈 (教育学部評議員)

・趣旨説明

戸部 秀之 (教育学部長)

・指定討論

戸部 秀之 (教育学部長)

安藤 聡彦 (教育学講座教授、前附属中学校長)

・附属学校園からの報告

(1) 附属小学校 研究主任 笠原 雅広

「漸進する学び(2年次)」

本年度は、2年次の研究となる。昨年度より、全職員での対話を通して、授業づくりにおいて、「土台・風土」「教材」「教師の関わり」の三つの要素が大切であることが分かってきた。そこで、本年度は、5月に公開授業研究会を新たに設定し、10月の研究協議会との変容を示していくことにした。全授業において、三つの要素を基に実践を行い、構築してきた理論と実践をつなぎながら、実践を行った。その結果、児童が目標をもてるようになるためには、三つの要素を大切に授業づくりが必要であるという共通認識を、改めて全職員で共有することができた。

今年度の授業の中から、「多様性」特に「多様な職業」「貧困・経済的格差」に目を向けた実践を中心に、教職員がそれぞれの研究を深めていく中で、学校研究が進んでいく様相についても報告する。

(2) 附属中学校 研究部長 阿部 健作

「挑戦心を育む『令和の日本型教育』の実現(4年・最終年次)

～学習者主体の授業が育む 未来への挑戦心～

今年度の学校経営方針「愛情・自尊心・挑戦心～多様性を尊重する社会を担う生徒の育成～」のもと、学校研究主題である上記に取り組んでいる。

「教職員は教育環境そのもの」と捉え、今年度は特に多様性に配慮した環境づくりを大切にしようと、UDL(Universal Design for Learning)に関する研修に注力した。

さらに、子どもアドボカシー(子どもの声にならない声に耳を傾けること)も重要であると考え、研修と授業研究に取り組んだ。授業を参観する際に、一人一人の生徒の変容に着目するようにしたことによって研修の質が高まったと捉えている。学校研究に加え、令和6年度重点「多様な職業」等を取り上げ、多様性を尊重した教育について報告する。

(3) 附属特別支援学校 副校長 柳澤 真美

「児童生徒の確かな学びを目指した授業づくり(3年次)

—『各教科等を合わせた指導』における学習評価の研究—

本校は、これまでも知的障害のある子どものための指導の形態「各教科等を合わせた指導」により、子ども一人一人の自立と社会参加の力を育ててきた。本研究期間においては、各教科等の目標・内容を明確化した計画と評価のあり方の改善、充実を図り、子ども一人一人の確かな学びを目指して実践研究に取り組んだ。本校のここで言う確かな学びは、「『確かな学力』及びそれを身につける過程で、自身の学び方、ともに学ぶ仲間や相手、環境を意識し、実際の生活の場面で活用できること」としている。

報告会では、子ども一人一人の確かな学びを目指した授業実践の中から、地域の施設や企業等と連携した体験的な学習活動を通して、「多様な職業」についての学びの姿と社会との共有を目指した教育課程(小学部、中学部、高等部各段階の系統性に配慮)について報告する。

(4) 附属幼稚園 副園長 小谷 宜路

「幼児教育への問いに実践から応えるⅡ—『楽しむ』とは何でしょう—」

本園では、「幼児一人一人の発達に応じながら、個々のよさや可能性を捉えること」「直接的な体験を通した育ちを保障すること」が、多様性を尊重した教育の基盤として重要であると捉えている。今年度の園内研究では、昨年度の「『遊び』とは何でしょうか」という問いに続き、指導計画や幼児理解、実践の省察などによく用いられる『楽しむ』について焦点を当てている。具体的な実践場面を記録し検討する中で、「一人で楽しむ／誰かと楽しむ」「同じを楽しむ／それぞれを楽しむ」「外へ楽しむ／内へ楽しむ」といった多様な『楽しむ』の在り方があることを考察している。また、学部と附属学校園の共同研究では、今年度、「多様な職業」を重点項目の一つにしているが、保育実践での具体例(専門職との出会い、ごっこ遊びでなりきる姿等)について報告する。

◇分科会◇ 15:00-17:00

分科会は、埼玉大学教育学部の教員が企画して実施するものです。  
分科会ごとに開催方法が異なりますので、ご注意ください。

**開催方法**

「対面のみ」は現地参加のみです。

「対面・双方向配信」は対面と zoom (双方向) で参加できます。

「対面・一方向配信」は対面と zoom (受信のみ) で参加できます。

「オンライン」は zoom のみで参加できます。

**【国語】** (A213 教室、ラウンドテーブル、企画 本橋幸康准教授) 対面のみ

主体的な学びを促す国語科の授業づくり

国語科における主体的な学びを促す工夫・取組をテーマに参加者と共に考えたいと思います。

話題提供: お茶の水女子大学附属中学校 藤倉 遼介教諭

**【算数・数学】** (A214 教室、ワークショップ、企画 二宮裕之教授) 対面のみ

『操作的活動』を生かす数学的活動: デジタル教材とアナログ教材

数学的活動における『操作』に焦点を当てて、デジタル教材を操作することを通じた数学的活動と、アナログ教材を手で操作することによる数学的活動を、実際に体験するワークショップを企画しました。

具体的には、デジタル教材として生成 AI が全国学力・学習状況調査中学校数学の問題を解決する際の数学的活動、アナログ教材として算数セットなどの教具を用いた数学的活動、ストローを用いた幾何教材による数学的活動、組み紐や数学パズルなどを、参加者に実際に体験していただきます。

埼玉大学教育学部 算数・数学分野

二宮裕之、松崎昭雄、増田有紀、飛田明彦、西澤由輔、松原和樹

**【理科】** (A324・A325 教室および廊下、ワークショップ、企画 小倉康教授) 対面のみ

教育学部自然科学講座理科分野(物理、化学、生物、地学、理科教育)の教員と学生、長期研修教員、附属学校の教員が、現場で活用頂きたい教材や指導の工夫についてご紹介します。ぜひお立ち寄りください。

○物理分野

・ポスター発表「探究的な学びと ICT を活用した「振り子の運動」単元の授業改善」佐藤 賀一(鶴ヶ島市立鶴ヶ島第一小教諭)、大向 隆三教授

○化学分野

・ポスター発表「カラーシャボン玉」松岡 圭介准教授

○生物分野

・ポスター発表「宝蔵寺沼ムジナモ自生地におけるムジナモ保護増殖 ～野生絶滅から 100 万株まで回復した取り組み事例～」日比野 拓准教授

・ポスター発表「日比野研の研究紹介～イトマキヒトデ幼生の食作用～」水谷 志穂(日比野研・学部4年)

○地学分野

・ポスター発表「10 年目の SaCRA 望遠鏡: 埼玉大学におけるさまざまな形態での教育利用や星空観望会」大朝 由美子准教授、佐藤 陸人(大朝研・大学院1年)ほか

・望遠鏡見学(H棟にある SaCRA55cm 望遠鏡の見学紹介をします。)佐藤 陸人(大朝研・大学院1年)ほか

## ○理科教育分野

- ・ポスター発表・教材紹介「ロールプレイとモデルを用いて事象の説明・予想を行う能力を育成する指導法（中学校第2学年「食べ物の消化）」 小海 裕暉（小倉研・学部4年）他、卒論生が研究成果をポスター発表する予定です。
- ・ポスター発表・教材紹介「児童が主体的に学ぶ理科授業の工夫 ～見通しをもち、振り返って評価・改善する力を高め、その有用性を感じられる指導法の開発～」 大工廻 朝晴（小倉研・長期研修教員・深谷市立花園小学校教諭）
- ・ポスター発表・教材紹介「子どもたちが主体的に取り組み資質・能力を向上できる中学校理科授業の研究」 花岡 大輔（小倉研・長期研修教員・八潮市立八幡中学校教諭）
- ・ポスター発表「学習者の教育観の変容による学習改善に関する研究 -OPPA 論の「価値づけ」を中心として-」 稲木 颯希（中島研・大学院2年）
- ・ポスター発表「OPPA 論とは」 岸田 笙・飛弾 隆輝（中島研・学部4年）

## ○教育学部附属小学校より

- ・ポスター発表・教材紹介「令和6年度理科授業実践発表（第4学年「とじこめた空気と水」他）」 秋元 祥広教諭

## ○教育学部附属中学校より

- ・ポスター発表・教材紹介「令和6年度実践発表及び教材紹介」 谷津 勇太教諭

## 【生活・総合】（A212 教室、ラウンドテーブル、企画 宇佐見香代教授） 対面・双方向配信

防災をテーマにした総合的な学習の時間の指導計画を考える

ー「現代的・地域的教育課題の共同探求」の成果からー

今年度の教職大学院授業「現代的・地域的教育課題の共同探求」での探究の成果を発表します。授業内で作成した総合的な学習の時間の単元構想「未来を救う3つのJ(Judgment) -危機をチャンスに! 防災アドベンチャー-」をもとに、具体的な活動の提案をします。参加の皆さんと共に、各校での取り組み例や実施したい活動のアイデアを出し合い、共有しましょう。各校での指導計画作成のヒントになると幸いです。  
\*単元名にあるJは「判断力の育成」を目指す構想であり、「3つのJ」とは「守るJ つなぐJ 立て直すJ」を示します。

## 【外国語（英語）】（A棟エデュスポ、ラウンドテーブル、企画 奥住桂准教授） 対面・一方向配信

「外国語における思考・判断・表現の活動を考えるータスクの実演と検討ー」

①実演「生徒が主体的に取り組む言語活動（タスク）の体験」

教育学部英語分野 奥住ゼミ4年生

②対談「外国語授業におけるタスクの活用」

田村 祐（関西大学外国語学部准教授）

奥住 桂（教育学部言語文化講座英語分野）

思考・判断・表現を指導・評価する枠組みとして意味のやり取りを中心に据えて指導する TBLT (Task-based Language Teaching) を取り上げます。奥住ゼミの4年生が考案した言語活動（タスク）を参加者のみなさんに体験していただいた上で、オンラインゲストの田村祐先生と一緒に、学生の考えたタスクについてや実際に授業に取り入れる際のポイント等を検討します。

【図画工作・美術】（D棟プロジェクト室・大学構内、ラウンドテーブル、企画 平野英史准教授）対面のみ  
図工・美術のワークショップ ～学校とは異なる文脈の美術教育を考える～  
「探検!美美ツとツアー/ブリコラージュのアートワークショップから」

参加者（現職教員や大学院生など）と一緒に、大学校内を散策しながらブリコラージュに使用できそうなお気に入りや収集し、そこからアート作品を共同で制作するワークショップを行う。制作活動の後には作品鑑賞をとおして学校とは異なる文脈の美術教育について意見交換する。

【音楽】（コモ棟6階音楽第1講義室、ラウンドテーブル、企画 森 薫准教授）対面・一方向配信  
音楽の先生のための現代音楽入門  
—歴史と理論、授業実践の視点から—

企画・司会：森 薫

話題提供（作曲の視点から）：高濱絵里子

話題提供（授業実践報告）：遠山里穂

教科書にも登場する一方で、音楽を専門とする人々にとってもどこか近寄りがたい「現代音楽」。その歴史上の意義、魅力、そして教材としての可能性を作曲家と音楽科教師のお話から紐解いていきます。

【体育・保健体育】（教育学部附属小学校体育館、ラウンドテーブル、企画 菊原伸郎准教授）対面のみ  
体育授業で活かせる実技を伴う教材のご提案とディスカッションの時間をご用意します。本年度はゴール型ゲームを扱う予定ですので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

13:00～14:40 全体会を ZOOM で視聴できるようにする

全体会后、ラウンドテーブル 司会進行（森田哲史先生）

14:50～14:55 開会の言葉（講座主任 細川江利子教授）、内容説明（森田哲史准教授）

14:55～15:15 小学校低学年ゲーム教材提案・実践報告（首藤祐太郎先生）

15:15～15:35 小学校高学年ゴール型教材提案・実践報告（石坂晋之介先生）

15:35～15:55 中学校ゴール型教材提案・実践報告（阿部健作先生）

15:55～16:25 参加者がグループに分かれてゴール型教材づくりと意見交換

※①小1～小4 ②小5～中学校の大きく二つのグループに分け、参加者数によって小グループを作成する。

16:25～16:40 総括（菊原伸郎准教授）

16:40～16:50 質疑応答（森田哲史准教授）、閉会の言葉（石川泰成教授）

13時からの全体会を附属小学校体育館にてZoom視聴しますので、直接附属小学校にお越しください。

また、駐車場の御用意はありませんので、公共交通機関をご利用ください。

【技術・情報】（A114 教室、ラウンドテーブル、企画 山本利一教授） 対面・双方向配信

「技術・情報」ラウンドテーブルは、冬に発表れる「諮問」を受け、新しい「技術・情報」教育の在り方を、実践事例を基に提案、協議します。AI、デジタルファブ리케이션、プログラミング、アントレプレナーシップ教育など、2年後に控えて全日本中学校技術・家庭科研究会研究会関東甲信越大会（埼玉）を意識した内容としたいと思います。登壇者の多くはオンラインでの参加となります。

[提案内容 15:00-16:25] オンラインを主とした一部対面

ラウンドテーブル課題「これからの技術・情報教育の在り方」 設定の趣旨説明（対面・オンライン）

埼玉大学 教授 山本 利一

1) 中学校技術科における AI に関する教育の必要性（対面・オンライン提案）

埼玉大学教育学部附属中学校 教諭 木村 僚

2) micro:bit と ML2Scratch の画像認識を用いた AI プログラミング学習（オンライン提案）

さいたま市立八王子中学校 教諭 竹澤 則乃

3) 生活や社会を見つめ、理想とする姿に向けて工夫し創造する生徒の育成（オンライン提案）

群馬大学教育学部附属中学校 教諭 山崎 真

4) 未来社会を切り拓くための資質・能力を育む学習指導の研究

ー埼玉県技術・家庭科教育研究会の実践ー（オンライン提案）

熊谷市立大里中学校 教諭 横田 真澄

[グループディスカッション 16:25~16:50] 1)~4)に分かれて

指導助言者予定（オンライン）

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 指導主事 林 裕人 氏

さいたま市教育委員会教育課程指導課 主任指導主事 松本 有 氏

蓮田市黒浜中学校 校長 安藤 義仁 氏

さいたま市立春野中学校 校長 永谷 和俊 氏

日本工業大学 教授 本村 猛能 氏

群馬大学共同教育学部 准教授 小熊 良一 氏

[グループディスカッション報告 16:50~17:00] 1)~4)のディスカッションのまとめ提案

【家庭】（A426、ラウンドテーブル、企画 亀崎美苗教授） 対面・双方向配信

「家庭科の授業づくりを語る」

今回は附属小の家庭科が目指す「生活をよりよくしようと工夫する児童の育成」をテーマに児童の自己決定を促し家庭実践につなげることを目的とした「調理計画・調理実習」の授業実践をご報告いただき、ディスカッションの時間を予定しております。

授業実践報告：渡邊さや香（埼玉大学教育学部附属小学校） 上野茂昭（埼玉大学教育学部）

【STEAM 教育】（A210、ラウンドテーブル、企画 野村泰朗准教授） 対面・双方向配信

[悩みをわかちあい協働的に解決] 実践事例から考える今日から始められる探求的な学びの場づくり

～教科の中での STEM/STEAM 教育と、主体性、問題解決力の育成～

【乳幼児教育】（コモ棟 505、ラウンドテーブル、企画 安東英里佳講師） 対面・双方向配信

附属幼稚園の挑戦ー子育て支援の拠点としての「こどもの育ち応援センター」設置の経緯と実践の報告ー  
小谷宜路(附属幼稚園副園長)「『こどもの育ち応援センター』設置の経緯と実践」  
寺園さおり(乳幼児教育講座)「子育て支援活動における学生の学び」

【特別支援教育】（A112、ラウンドテーブル、企画 山中冴子准教授） 対面・双方向配信

交流及び共同学習の充実を目指して:子どもの「声」を踏まえた教員間連携

このラウンドテーブルでは、交流及び共同学習を充実させるための教員間連携のあり方を、障害のある子どもの「声」から考えます。話題提供の後には、意見交換の時間も予定しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。

話題提供:

山中冴子(埼玉大学教育学部特別支援教育講座)

松下祐樹(埼玉県立草加かがやき特別支援学校・2023 年度教職大学院修了)

清水亮太(嵐山町立菅谷小学校・教職大学院)

【学校保健学】（ラウンドテーブル、企画 西尾尚美准教授） オンライン

養護教諭による中学生の栄養教育ー中学校の養護教諭と埼玉大学養護教諭養成課程の大教員の連携による栄養教育の実践についての報告ー

【心理学】（A113、ラウンドテーブル、企画 中井大介准教授） 対面のみ

ご来訪いただいた先生方の心理学, 生徒指導にかかわる研修上のご質問等に回答させていただきます。

【教員研修】（A110、ラウンドテーブル、企画 内河水穂子教授） 対面・双方向配信

個別最適な学びと協働的な学びの充実について考えよう!

- ・個別最適な学びと協働的な学びの充実には、どのような授業実践や校内体制が必要なのか、一緒に考えませんか?
- ・皆さんの授業実践や校内体制や、それに関する課題や悩みを共有し、個別最適な学びと協働的な学びの実施・充実について、一緒に検討していきましょう。
- ・皆さんの興味関心や課題に応じて、教育実践総合センター教員のミニ講義も複数予定しています。

◇教職大学院発表会（課題研究発表会）◇ 9:30-12:10

プログラム

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 1 [C1教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AE001	堀田 卓真	高校生における家族機能が与える生徒へのアイデンティティに関する影響について
		M②	9:45~10:00	24AE002	牧野 優太	教育における関係形成と自己形成の連関
		M③	10:00~10:15	24AE003	渡邊 昂太	中学生の二次元レジリエンスと外在化・内在化問題の関連について
		M④	10:15~10:30	24AE004	高崎 菜摘	学級風土が児童の自己肯定感や学習意欲に与える影響について
		M⑤	10:30~10:45	24AE005	藤永 さつき	子どもの探究活動を支える学校図書館
	最終 (F)	F①	10:45~11:05	24AE051	越 佑喜	通常学級における多様な教育的ニーズのある児童に寄り添う学級担任への支援 ー教育相談主任によるUDLに基づく授業づくり支援と学級担任へのコンサルテーションによる校内支援体制の確立を目指してー
		F②	11:05~11:25	24AE052	石山 沙希	小学校における多文化教育の授業実践 ー「外国につながる人々」を知るための単元開発を通してー
		F③	11:25~11:45	23AE001	小泉 滯奈	小学生の学級内における友人関係と過剰適応の関連
		F④	11:45~12:05	23AE002	赤間 大樹	災害を乗り越えるための資質・能力を育成する防災教育の単元計画の作成 ー自助・共助を実現する中学生の育成ー

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 2 [A325教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AE301	藤井 菜緒	夜間定時制高校における多様なニーズの受け入れ過程 ー埼玉県の夜間定時制高校を事例としてー
		M②	9:45~10:00	24AE302	柳下 菜々花	居場所概念とその社会的背景に関する考察
		M③	10:00~10:15	24AE303	井上 希彩	相互行為としてのケアが育まれる時間
		M④	10:15~10:30	24AE304	阿波連 実里	子どもの権利を尊重する学校づくりに向けた教師の連帯の可能性 ー人権を基盤とした包括的性教育の視点からー
		M⑤	10:30~10:45	24AE401	石井 優愛	小学生における『生きる力』尺度の内容妥当性検討
	最終 (F)	F①	10:45~11:05	23AE301	山岸 千華子	学校から社会への移行過程において〈気になる若者たち〉(YC)がクライシス状況から次へと向かっていくその背景にあるもの
		F②	11:05~11:25	23AE302	齋藤 咲月	子どもが自己の学びを大切にできる授業のあり方を探る ー聴き合う関係を手掛かりにー
		F③	11:25~11:45	23AE401	徳永 すみ	保育者の関わりみえる理想のインクルーシブ保育とは ーコルチャックの子ども観を手がかりにー

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 3 [A324教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AE201	中田 侑果	養護教諭が主体となって行う健康教育の教育的効果について ー中学生の栄養摂取状況・睡眠状況調査から考察ー
		M②	9:45~10:00	24AE202	長岡 未来	高校生を対象としたストレスへの認知に注目した保健指導の検討
		M③	10:00~10:15	24AE203	竹内 日菜子	学校や児童生徒の実態に即した栄養教育の在り方について ー中学生の栄養摂取状況調査から考察ー
		M④	10:15~10:30	24AF801	竹村 直起	技術科教育における栽培技術の理解を効果的に促す教材の検討
		M⑤	10:30~10:45	24AF802	池田 周登	「体づくりの運動遊び」を通じたアンブレラプログラミング教育の実践報告
	最終 (F)	F①	10:45~11:05	24AE151	清水 亮太	小学校におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する一考察 ー自閉症・情緒障害学級に在籍する児童の交流及び共同学習のあり方に注目してー
		F②	11:05~11:25	24AE152	荒木 魁斗	特別支援学校における行動問題に対する機能的アセスメントに基づく支援の現状と方向性 ー行動問題の機能推定と望ましい行動の増加に焦点をあててー
		F③	11:25~11:45	23AF801	松本 考央	ものづくり学習において表出するポジティブ感情の特徴
		F④	11:45~12:05	23AF802	関 綸太郎	これからの日本のエネルギー政策を考察する中学校技術・家庭科技術分野の授業実践と評価 ーカーボンニュートラルや新しい発電技術を評価・活用する観点の育成を目指してー

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 4 [A212教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AF201	浅見 直輝	高等学校歴史科における「史料批判」を取り入れた教材開発
		M②	9:45~10:00	24AF202	阿久津 佑貴	「中学校社会科歴史的分野の授業における教材開発の手法に関する検討 一地域史資料の教材化を中心に」
		M③	10:00~10:15	24AF203	岡田 実乃璃	高等学校における歴史的思考力育成の研究 一「歴史総合」の授業実践を通して
		M④	10:15~10:30	24AF204	富島 織音	社会参加学習における解決志向育成の手立ての検証
	最終 (F)	F①	10:30~10:50	23AF201	芥木 大祐	小学校社会科における主体的な学びを引き出す授業づくり
		F②	10:50~11:10	23AF202	清水 裕也	中学校社会科地理的分野におけるICTの活用 一GISを活用した授業実践に着目して
		F③	11:10~11:30	23AF203	池尻 航平	高校地理歴史科歴史総合分野における社会的な見方・考え方をういた問いによる授業の研究

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 5 [A213教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AF205	楊井 真琴	意思決定学習における合理的な価値判断のあり方について
		M②	9:45~10:00	24AF206	小林 陸久	小学校社会科における「希望」の概念を用いた授業の検討
		M③	10:00~10:15	24AF501	橋本 廉士	音楽科授業における表現をめぐる諸要因の検討 一拡張的学習理論を手がかりに
		M④	10:15~10:30	24AF502	逸見 友花	小学校第1学年音楽教科書におけるわらべうた教材の分析 一保幼小連携・接続の視点から
	最終 (F)	F①	10:30~10:50	23AF204	穴戸 裕	地域を生きた存在として理解するための日本地誌学習の教材開発と授業実践
		F②	10:50~11:10	24AF251	矢野 幸恵	小学校社会科における児童の主体的な学びと評価 一PBLの視点から
		F③	11:10~11:30	24AF551	細田 征吾	合唱における歌詞の表現指導 一音調句に着目して
		F④	11:30~11:50	23AF501	山岸 香穂	高等学校芸術科音楽履修生の授業に対する意識について 一選択動機に焦点を当てて
		F⑤	11:50~12:10	23AF502	大戸 遥香	音楽科授業に対する意欲減退とその回復の過程 一M-GTAを用いたインタビュー・データの分析

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 6 [A114教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AF301	菊池 瑠翔	AIを活用した新時代の数学授業の構想
		M②	9:45~10:00	24AF302	宮武 昌杜	算数・数学学習における「まき活動(listening)」についての研究
		M③	10:00~10:15	24AF303	鈴木 佑実	数化の際に起こりうる数学の世界と現実の世界のギャップに関する研究
		M④	10:15~10:30	24AF304	田中 将太	無向グラフ上の逆形一般化しりとリゲームの考察
	最終 (F)	F①	10:30~10:50	23AF301	片山 竜二	数学的活動における「数化」に関する研究
		F②	10:50~11:10	23AF302	後藤 璃子	ICTを用いたモデリング教材の開発 一教具LEGOを用いた「オーニング窓」と生成AIを用いた丸顔判定法
		F③	11:10~11:30	23AF303	伏木 智彬	学校数学におけるICTを活用した協働的な学びに関する研究 一協働的な学びにおける「創発」に着目して
		F④	11:30~11:50	23AF304	西村 勇真	数学の理解を促進させる数学的活動に関する研究 一高等学校の「場合の数と確率」に焦点を当てて
		F⑤	11:50~12:10	23AF305	木村 友香	算数の授業におけるユニバーサルデザインに関する研究 一数直線を用いた学習に着目して

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 7 [A113教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AF401	安原 康弘	専門教科における立場と生徒の思考の変容
		M②	9:45~10:00	24AF402	鈴木 一幸	実験・観察による分子比の学習方法 一鉱物や岩石を用いた実験・観察方法の提案
		M③	10:00~10:15	24AF403	北村 千咲	OPPA論に基づく学習者の考え方に関する研究
	最終 (F)	F①	10:30~10:50	23AF306	佐藤 剛	生徒の非認知能力を高める数学の授業に関する研究 一やり抜く力の育成に着目して
		F②	10:50~11:10	24AF351	田口 亮	学習改善につながる学習評価の研究
		F③	11:10~11:30	24AF352	小田木 香純	図形領域におけるつながりを見いだす学習指導
		F④	11:30~11:50	23AF401	森田 杏月	フローチャートと合言葉を用いた実験計画力を伸ばす指導法
		F⑤	11:50~12:10	23AF402	田中 航太	理科教育における学習と指導と評価の一体化に関する研究 一OPPA論に基づいた理科授業を中心として

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 8 [A112教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AF404	佐藤 陸人	天文分野における自ら学びに向かう力の獲得を目指して
		M②	9:45~10:00	24AF405	塚本 晃大	観察活動における実物を用いることの教育的効果
		M③	10:00~10:15	24AF406	原田 龍世	学校内で行える化石採集活動 一水酸化ナトリウム溶液を用いた放散虫化石の抽出実験一
		M④	10:15~10:30	24AF407	竹田 莉乃	小学校の理科の観察・実験の授業実践 一児童が自然を観察する力を育むために一
	最終 (F)	F①	10:30~10:50	23AF403	小林 悠人	学習者の批判的思考スキルを育成する理科指導法の研究
		F②	10:50~11:10	23AF404	稲木 颯希	理科嫌い・理科離れ問題の解決に向けて 一OPPA論における「価値づけ」に注目して一
		F③	11:10~11:30	23AF405	森山 紗帆	小学校「振り子の運動」単元におけるデジタルセンサ活用の試み

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 9 [A214教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AF601	監物 良太	美術教育におけるドローイング（主観的素描）と子供の授業意欲との関係性に関する実践的研究と考察
		M②	9:45~10:00	24AF602	赤沼 浩太	図画工作科での子どもにとって最適な学びの提供のための課題研究 一図画工作における主体的対話的で深い学びの実践一
		M③	10:00~10:15	24AF603	宇田川 海	子どもの発想・構想を伸ばすための題材研究 一生成AIを活用した授業題材の開発と実践一
		M④	10:15~10:30	24AF604	平良 瑞希	線描の教育的価値づけ
	最終 (F)	F①	10:30~10:50	23AF601	田中 優綺	美術教育における教科横断型教材の提案 一学習意欲を高める鑑賞教材について一
		F②	10:50~11:10	23AF602	齊木 紫乃	小学校における図画工作科教育の課題と提案 一成績評価の観点から一貫性のある授業作りに向けて一
		F③	11:10~11:30	23AF603	孫 チーシュエン	日本と台湾の美術教育の比較 一題材、学習指導要領及び生徒の意識についての実地調査一
		F④	11:30~11:50	24AF751	石坂 晋之介	児童が主体的に学習に取り組む小学校高学年ゴール型授業の研究 一内発的動機づけを図る工夫と学習としての評価(Assessment as learning)に注目して一
		F⑤	11:50~12:10	23AF701	杉本 真実	運動部活動の地域移行の課題の検討

会場		発表順番	発表時間	学籍番号	氏名	課題研究題目
会場番号 10 [A203教室]	中間 (M)	M①	9:30~9:45	24AF001	山田 飛鳥	学習者の興味・関心を惹く古典の授業展開について
		M②	9:45~10:00	24AF101	中本 雄大	中学校英語科における学習支援アプリ「Kahoot!」の有効的活用
		M③	10:00~10:15	24AF102	有江 聖	小学校外国語科（グローバル・スタディ科）におけるインフォームド・アセスメントに関する研究 一先行研究と教員質問紙調査から見た傾向と次年度への示唆一
	最終 (F)	F①	10:30~10:50	24AF151	谷口 拓矢	主体的で自律した学習者を育てる中学校グローバル・スタディ科の授業づくり 一生徒のエンゲージメントを高める教師の働きかけや生徒のICT活用を通して一
		F②	10:50~11:10	23AF001	鹿島 群太	『水の東西』の教材観を捉え直す 一批判的思考能力の育成とレトリック的思考への転換と展望一
		F③	11:10~11:30	23AF101	藤田 涼太郎	高校英語科における「話すこと」の指導の提案 一教師と生徒と教材が対話する授業をめざして一
		F④	11:30~11:50	23AF102	渡辺 愛	人間関係力を高める英語科授業を作るための実践研究 一協同学習に着目して一
		F⑤	11:50~12:10	23AF103	山科 仁実	小学校外国語教育の充実に向けた専科教員制度の課題と可能性 一学級担任等との連携に着目して一